

年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年） 教科 家庭 科目 家庭基礎

教科：家庭科 科目：家庭基礎 単位数：2 単位  
 対象学年組：第2学年 1組～8組  
 教科担当者：（1組：朝比奈）（2組：朝比奈）（3組：高山）（4組：高山）（5組：朝比奈）（6組：朝比奈）（7組：朝比奈）（8組：高山）  
 使用教科書：（家基007-901新家庭基礎 気づく力 笑く未来 実教出版）  
 教科 家庭科 の目標：

- 【知識及び技能】人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解をはかる。
- 【思考力、判断力、表現力等】家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して、課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を通して生活の課題を解決する。
- 【学びに向かう力、人間性等】様々な人々と協議し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会の関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技術を身に付ける。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、解決策を構想し、実践評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。	様々な人々と協議し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとする。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	感	配当 時数
<b>単元 自分らしい生き方と家族</b> <b>【知識及び技能】</b> ・自立の種類とそれぞれの具体的な内容を把握する。 <b>【思考力、判断力、表現力等】</b> ・男女共同参画社会の実現をめざす歩みと社会的背景について理解し、どのような青年期を生きるかを考えることができるようにする。 <b>【学びに向かう力、人間性等】</b> ・労働の種類、またその意義について多面的に検討できるようにする。 ・労働を支える社会や地域のしくみを知ることで、私たちもその一員であるという自覚を持つことができるようにする。	1 自立と共生 2 ライフキャリア 3 共に生きる家族 4 家族に関する法律 資料集・学習ノート	<b>【知識・技能】</b> 青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力などについて理解できる。生活にかかわる労働の意義、また、現在の労働環境などについて理解できる。・現在の生活時間の状況をふまえ、生活時間と労働との関係について理解できる。結婚、家族、家庭の多様化や、時代とともに変化する役割について理解できる。 <b>【思考・判断・表現】</b> 図表などから家族の形、家庭のあり方や役割について、また時代とともに変化した背景について読みとることができ、現在の家族、家庭のあり方や役割について考えを深め、表現することができる。 ・家族・家庭に関する課題・問題点について、社会的な制度、労働環境や雇用情勢などの背景も考慮しながら原因を推測し、考えをまとめることができる。 ・家族の変遷や家族に関する意識の変化、さらには、現在の家族の抱える問題・課題などについて、新聞や書籍などから情報を収集し、自らの考えをまとめることができる。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 男女共同参画社会など、現在の社会的状況について、興味を持って知ろうとする態度がある。労働の意義や役割、労働時間と生活時間との関わりについて関心をもち、現在の家族・家庭がかかえる課題を見いだそうとする。	○	○	○	6
<b>単元 子どもとかわる</b> <b>【知識及び技能】</b> ・育児を学ぶ意義について理解する。 ・10代の健康が、将来生まれてくる子どもにつながっていることを理解する。 <b>【思考力、判断力、表現力等】</b> ・子どもの世界と出会うことによって、自己理解を深める。 ・子どもの誕生、子どもの心身の発達と特徴について理解する。 ・子どもは、親や保育者などの身近な大人とのかかわりあいのなかで発達していくことを理解する。 ・子どもの食生活・衣生活、遊びについて理解を深める。 <b>【学びに向かう力、人間性等】</b> ・子どもを生み、育てる意義について理解する。 ・親子関係の課題を理解し、解決に向けてできることを考えることができる。	1 子どもとは 2 子どもの発達 3 子どもの生活 4 子どもをはぐくむ 5 子どものための社会福祉 資料集・学習ノート	<b>【知識・技能】</b> ・子どもの心身の発達や子どもの生活についての知識を身につけている。 ・子どもの接し方、子どもの衣食住に関わる物作りの技術を身につけている。 ・生命の尊さ、子育ての意義について理解することができる。 ・子どもの発達段階において、子どもを取り巻く状況について、理解できる。 <b>【思考・判断・表現】</b> 子どもの心身の発達、現在の子どもを取り巻く状況や子育ての環境について、課題を見つけ、解決への考えをまとめることができる。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ・子どもの世界について、自分の子どもの頃を思い起こしながら、興味・関心を持ち、子どもの生活について、積極的に子どもとかわりながら、理解しようとする。 ・生命の尊さについて、自分の現在、将来と結びつけながら、学習しようとする意欲がある。 ・子どもを取り巻く状況について、現状を知り、その課題を見つけ、解決に向けて考えようとしている。	○	○	○	8
<b>高齢者とかわる</b> <b>【知識・技能】</b> 高齢者の心身の特徴や生活を客観的に理解する。高齢期の心身の変化による生活行動の不安に気づき、改善する。 <b>【思考力、判断力、表現力等】</b> 要介護の高齢者に対して、必要な心掛けを理解し、手助けができる。 <b>【学びに向かう力、人間性等】</b> 介護保険制度について理解する。介護をめぐる課題について理解する。	1 高齢社会に生きる 2 高齢者を知る 3 高齢者の自立を支える 4 高齢社会を支える仕組み 資料集・学習ノート	<b>【知識・技能】</b> 高齢社会の現状や高齢者の心身の特徴について理解している。・認知症の高齢者と接するときに必要な心掛けを理解している。・高齢期を支える社会的な制度・しくみについて理解している。 ・高齢者の生活における地域社会の役割、地域福祉の重要性について理解できる。 <b>【思考・判断・表現】</b> ・高齢社会の現状や高齢者の生活を知ることにより、高齢者の自立した生活とは何か、自分の考えをまとめることができる。 要介護の高齢者と接する上で気をつけるべきことを考えることができる。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 高齢社会の現状、新市委の特徴や生活について、積極的に知り、高齢者と関わろうとしている。	○	○	○	6
定期考査			○	○		1

2 学 期	<p>単元 衣生活をつくる</p> <p>【知識及び技能】 ・衣服が持つ機能や安全性についての知識を身につける。 ・だれもが快適な衣生活を送るための要因を理解する。 ・衣服素材の種類、繊維の種類と特徴、衣服素材の性能について理解し、用途に応じた素材の選択ができるようにする。 ・衣服製作を通して、衣服の構成や基礎的な縫製技術を身につける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・衣服の表示にはどのような種類があるのか、なぜついているのかを理解し、購入から洗濯などの管理に役立てる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・洗剤・漂白剤・防虫剤などの種類について理解し、衣服の種類に応じた適切な選択や保管ができるようにする。</p>	<p>1 人と衣服のかかわり</p> <p>2 衣服の素材の種類と特徴</p> <p>3 衣服の選択から管理まで</p> <p>4 持続可能な衣生活をつくる</p> <p>5 衣服の構造・デザイン</p> <p>資料集・学習ノート</p>	<p>【知識・技能】 衣服の素材の種類や特徴について知識を身につけ、用途に応じてどんな衣服が適切か理解できる。 ・衣服材料の性能と特徴、衣服整理についての科学的な知識を身につけることによって、衣服を適切に選択し、管理することができる。材料の選択、日常の衣服管理の方法を習得するとともに、基礎縫いなどの縫製技術を身につけ、日常着の管理ができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 衣服の用途によって、適切な衣服素材を考え、判断することができる。衣服材料・衣服整理についての基礎的な知識を身につけ、実生活での衣服管理において、適切な判断ができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 自分の衣生活をとりまく状況について関心をもち、衣生活の改善・向上に積極的にとりくもうとする。</p>	○	○	○	16
	<p>単元 食生活をつくる</p> <p>【知識及び技能】 ・自身の食生活の現状把握と今後の課題を理解する。 ・健康で豊かな食生活をはぐくむための気づきや工夫を理解する。 ・栄養素の種類と働きやそれぞれの栄養素が多く含まれる食品についての基礎的な知識を身につける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・食品の正しい選び方と食中毒に対する予防法を理解する。 ・食品添加物について理解する。 ・家族の食生活の計画と管理ができるようになる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・衛生と安全に配慮して、調理することができるようになる。 ・年齢や性別ごとに異なる一日に必要な食事摂取量と、それを満たすための食品の量を理解する。</p>	<p>1 日本の食分野の形成</p> <p>2 私たちの食生活</p> <p>3 栄養と食品のかかわり</p> <p>4 食品の選び方と安全</p> <p>5 食事の計画と調理</p> <p>6 これからの食生活を考える</p> <p>資料集・学習ノート</p>	<p>【知識・技能】 食事の意義や役割、食生活をとりまく環境などについて、現代の食生活の課題が理解できる。栄養・食品に関する科学的な知識や調理の技術を身につけ、それを実際の食生活に生かすことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 自身の食生活や現在の食生活の課題を発見し、課題解決のために思考し、解決にむけての判断ができる。 ・栄養の機能と食品のかかわり、また食品の特性と調理との関係において、科学的な思考を身につけ、食品選択、栄養計算や献立作成など、実際の食事づくりにむけての判断ができる。</p> <p>・調理実習において、作業の流れを判断しながらとりくむことができる。食品と栄養、調理との関係において、科学的な視点をもって、知識を深めようとしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 自分自身の食生活について関心をもつとともに、自分や家族の食生活について意欲的に改善・向上に努めようとする。調理実習においては、積極的に参加し、とりくもうとしている。</p>	○	○	○	15
	<p>単元 住生活をつくる</p> <p>【知識及び技能】 ・住まいはどのような機能を持ち、人の生活がその機能とどうかかわっているか理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・ライフステージや住まいの住居要求に応じて平面計画が変化することを理解する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・住まいの生活空間の機能を理解し、空間の特徴や家族のイメージをすることができるようにする。</p> <p>定期考査</p>	<p>1 人間の住まい</p> <p>2 住まいの文化</p> <p>3 住まいを計画する</p> <p>4 健康に配慮した快適な室内環境</p> <p>5 安全な住まい</p> <p>6 持続可能な住まいづくり</p> <p>資料集・学習ノート</p>	<p>【知識・技能】 日本独特の生活様式と、それに伴う住まいの特徴を理解している。 住まいの機能・役割、またライフステージや家族構成などと住まいの関係について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 現代のライフスタイルやライフステージに応じた住まいについて考えることができる。ライフステージと住空間の設計の関係、住環境について考えを深めることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 住まいの機能、住空間の計画や住環境について関心をもち、快適な住まいづくり、よりよい住生活の創造にむけて意欲的にとりくもうとする。</p>	○	○	○	1
3 学 期	<p>単元 消費行動を考える</p> <p>【知識及び技能】 ・消費行動において、意思決定のプロセスが重要であることを認識する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・契約、多様な販売方法や支払方法、問題商法について理解する。また、被害にあった場合の解決方法についても理解する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・情報リテラシーを身につける大切さを理解する。</p> <p>単元 経済的に自立する</p> <p>【知識及び技能】 ・家庭経済を国民経済、国際経済の関係性に気づく。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・家庭の収入や支出、予算生活の必要性について理解する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 に日の暮らしの中で持続可能な社会をめざした行動を知ることができるようになる。</p> <p>定期テスト</p>	<p>1 消費行動と意思決定</p> <p>2 消費生活の現状と課題</p> <p>3 消費者の権利と責任</p> <p>4 ライフスタイルと環境</p> <p>5 暮らしと経済</p> <p>6 将来のライフプランニング</p> <p>資料集・学習ノート</p>	<p>【知識・技能】 消費行動について、さまざまな情報を収集しながら、自分の消費行動について検証することができる。消費行動における意思決定の過程とその重要性について理解でき、また契約についての知識を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】 消費行動における意思決定の過程について、具体的な事例を通して主体的に考え、判断することができる。多様化する販売方法や支払い方法について、問題点や解決策を考え、判断することができる。現在の経済社会と家計との関係を考えながら、家庭の収入・支出・預金などについて、適切な考えをもち、判断ができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む姿勢】 自分の経済的自立を考えながら、家庭経済・国民経済のしくみや家計の特徴について、積極的に理解しようとし、短期・長期の経済計画について意欲的にとりくもうとしている。</p>	○	○	○	8
	○	○	○	1			